

大橋あきお

大阪府議会議員

通信

令和7年
新春号

発行：大橋章夫府政事務所

〒573-0027 枚方市大垣内町2-17-5 ダイショウビル301

TEL: 072-861-0117 / FAX: 072-861-0116

<https://ohashi-a.com/>



■府議会で一般質問する大橋あきお

大阪府議会11月定例会本会議・一般質問より

大橋あきおは、大阪府議会11月定例会本会議において、府民の皆様からいただいたお声、ご相談をはじめ、大阪府の諸問題、地元枚方市のまちづくりなどについて質問しました。

淀川にかかる渡河橋の整備状況

現在、新名神高速道路の工事は、枚方市域において、高槻インターから八幡京田辺インターまでのトンネル工事に向けて、世界最大級のシールドマシンが準備されています。また、長尾家具町周辺では、府道内里高野道線の整備が進んでおり、国道一号線から八幡京田辺インターへの利便性は格段に向上します。さらに淀川の新しい橋である「府道牧野高槻線」が整備されることにより、牧野・楠葉地域から高槻インターへのアクセスが確保されるとともに、枚方大橋や高槻市の国道171号線の渋滞解消にもつながってきます。この牧野高槻線については、枚方大橋の上流12kmの区間に橋がないことから、防災上の観点からも早期の整備が求められています。令和2年度に事業着手して、枚方市側では用地買収に必要な取り組みが進んでいますが、高槻市側では地域住民からの意見も多く、課題が指摘されています。

大橋あきおは、高槻市の現場を視察し、大阪府に今後の進め方を問いました。府は、高槻市において地域分断などの課題を地元と意見交換してきた。ようやく現地測量を実施するところまできたので、丁寧に進め、地域の理解が得られるように取り組んでいくと答弁しました。

中間的就労の支援について

ひきこもりや長期失業状態など様々な事情で働きづらさを抱えた人が、一般就労に移行する前に、支援付き就労や訓練の場を提供する取り組みを「中間的就労」と言います。この事業を担う就労訓練事業所は、昨年度末時点で府内310事業所があり、多くの事業所が「中間的就労」を受け入れることを理解いただいています。就労訓練事業所の役割は多岐にわたり、担当者の配置や利用者との連絡、訓練内容や日々の就労状況の調整など、時間と労力を要する業務を担っています。多くの事業所が社会貢献の一環として、リスクを背負いながら「持ち出し」までして運営しており、その協力と熱意に頭の下がる思いです。

大橋あきおは、枚方市内の「中間的就労」に協力いただいている社会福祉施設から、その負担の大きさについて相談を受けました。そこで大阪府に対し、利用者と事業所をつなぐ工夫や就労訓練事業所へのインセンティブも必要ではないかと質問しました。府は、直ちに一般就労が困難な人にとって本事業の役割は大変重要である。協力事業所へのインセンティブについては、全国一律の制度となるように粘り強く国に要望していくと答弁しました。

大阪・関西万博開催中の車いす利用者への影響について

4月に開催が迫ってきた大阪・関西万博の来場者輸送については、現在検討が進められており、公表されている方針では、1日に22.7万人が来場する場合、約6割が大阪Metro中央線を利用する計画となっています。大橋あきおのもとに、心身の発達に遅れや障がいのある子どもが通う、大阪Metro中央線沿線の社会福祉施設から相談がありました。その施設に通園する子どもたちの大半は車いすを利用しており、大阪市域全域から保護者の付き添いのもと通園しています。中でも、医療的ケア児と呼ばれる、人工呼吸器や胃ろう、たんの吸引など、医療的ケアが必要な子どもは、バギー型車いすと呼ばれる大型の車いすを利用しています。万博開催中に混雑する電車に乗車で

きなくなったり、乗車できても車いすスペースが使用できなかつたりすることが考えられると、施設長や保護者は不安を感じています。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、「SDGs達成への貢献」を目標にしています。

大橋あきおは、万博の開催により、府民の生活に、特に障がいのある方に支障が出ることはあってはならないと訴え、吉村知事や万博推進局に対応を問いました。大阪府は、車いす利用者への対応については、大阪Metroにおいて、乗降補助や車内のお客様への声かけはもとより、駅員や誘導員を増員配置する。また、計画を進めている「子ども優先列車」にも乗車できるように調整を進めると答弁しました。